

緑の宝



1998
春号
No.7



さくらとSL

目次

特別寄稿	P2	●平成九年度緑化技術講習会開催	P8
●新しさます建設市場への対応 稲藤 英夫		支部だより	P8~9
御挨拶	P3	●東部支部 支部研修会と園展	
●都市住宅部公園緑地課長 犬野 真之		●中部支部 緑の相談所開設	
2001年しづおか緑・花・祭の基本計画骨子 P4~6		●西部支部 浜松市立河樋小学校 緑化工事竣工	
●新年度賀詞交歓会 盛大に開催	P7	県の新組織と人事、予算がスタート	P10
●郷土裡による緑化技術セミナー終了		平成10年度 県予算スタート	P11
●空港整備計画推進事業緑化モデル試験植栽を実施	P8	話題の森・お知らせ・編集後記	P12

題字／技士会会长 乗松文男

特別寄稿



厳しさます建設市場への対応

（技術力・経営力の向上を）

土木部管理課建設業室長
山根保夫

我が国の基幹産業である建設業を取り巻く現況は、内外価格差、公共工事不要論、建設市場の国際化等非常に厳しい状況にあり、また、財政構造改革による公共事業の削減やコスト縮減が実施され、効率的な公共投資の在り方についての議論がなされております。

このような厳しい建設市場の中、公共事業への依存度の高い中小建設業者にとっては、今後益々厳しい淘汰の時代を迎えることが予想されています。

こうした状況下にあって、技術と経営に優れた中小建設業者が伸びられる環境の整備が重要となることから、中央建設業審議会が平成8年9月より、建設業団体等からの意見を踏まえ、「民間の技術力を活用する多様な人材・契約方式の導入や透明性の一層の向上を図るなど入札制度の更なる改善」及び「公共工事における企業評価のあり方・経営力の強化のために企業連携の推進など建設業の構造改革の推進」をテーマに分科会を発足させ、検討を重ね本年2月4日に「建議」を行いました。

この建議の内容は、建設業界を取巻く厳しい経営環境を生き抜くためには、優れた技術力と経営力を備えていることが重要との視点に立った内容となつております。

技術力については、一つ目としては、技術力による競争が促進される入札・契約方式として、設計から施行に至る各段階で、発注者の技術力に加えて、施設業者、設計者等の個別・具体的な民間の技術力を一層広く活用する

期待しています。

さらに、経営事項審査の各審査項目別の数値、評点と総合評点を、また、入札参加業者の資格審査、格付け結果のうち、入札参加の等級（ランク）について建設業者ごとにそれぞれ公表することが適当であるとされていることから、今後は各企業の技術力・経営力などの企業情報の全てが公表されることになります。

（入札方式）①技術提案競争入札方式②技術提案総合評価方式

●契約VE方式（提案採用型契約変更方式）

●設計・施工一括発注方式（①技術提案競争入札方式②技術提案総合評価方式）

●設計・施工一括発注方式（①技術提案競争入札方式②技術提案付き競争入札方式）

●設計・施工一括発注方式（①技術提案競争入札方式②技術提案付き競争入札方式）

の導入を、二つ目としては、技術力の企業評価への適切な反映として、建設業法の業種別許可区分の見直し（現行28業種をグループ単位へ）と経営事項審査の評点の見直し（ウェイトの見直し）を、三つ目としては、技術力に欠け適正な競争を妨げる不良不適格業者の排除の徹底を図る対策として、現場職員の現場専任制確保のための発注者支援データベースシステムや施工体制台帳の活用と違反者に対する厳正なペナルティーを求めております。

また、経営力については、公共工事の削減等に伴っておりことから、量的的な側面だけでなく質的な側面をも重視した経営への転換が重要であり、この対応を図るために、企業連携・協業化などによる資金負担、危険負担の軽減、技術力の強化、相互移転などによる経営力の充実など新たな企業経営の展開が必要であるとして、経常JV・経常建設共同企業の積極的な組織化の促進とともに、県と市町村がこの厳しい状況の中にあって、造園緑化関係建設業者がこの厳しい状況の時代を生き抜くためには、技術力を高め、経営力を高めて行くことが最も必要であり、企業連携や経常JV等の組織化に取り組むにいたる経営改善が重要な要素となっています。

県は、OJTモデル工事、技術移転型特定JV工事の拡大や経常JVの活用の促進等を積極的に展開しておりますので、貴協会会員の積極的な取組みを期待しております。

御挨拶



都市住宅部公園緑地課長

狩野義之

貴会員の皆様には、日ごろより、緑豊かで潤いのある街づくりを目指す公園緑地行政の推進に、多大な御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本県では、豊かな自然を生みした美しい県土づくりを県政の重要な施策の一つとしており、新たな世紀の始まりである2001年に、吉田町の吉田公園予定地をメイン会場に、県民の皆様の広範な御協力をいただきながら「2001年しづおか緑・花・祭」を開催することとしております。

昨年3月にこのイベントの事業計画を検討していただくため、関係団体や関係機関の参画を得て「静岡県推進協議会」を設立したところであり

ますが、今後出来るだけ早い時期に、この組織を発展的に具体的な事業実行組織としての実行委員会に衣替えして参りたいと考えております。

また、地元、志太榛原地域13市町におきましても、市・町長で組織する「連絡調整会議」を設置していただいておりましますし、今年2月には地元の吉田町におきましても、町議会や自治会・各団体の代表あるいは花の会の代表など、官民一体となつた「吉田町推進協議会」を設立していました。

今後これらの組織が連携をとりながら、「丸となつて取組むことによつて、着々と準備が進められ、文字どおり21

世紀の初頭を飾るにふさわしい、輝きと盛り上がりのあるイベントにして参りたいと考えております。

このほか、地元の皆様や緑化園芸関係企業、小売店、生産者、学校、趣味グループ等、幅広い県民の皆様のご協力を

ピールできるイベントにして参りたいと考えております。

このほか、地元の皆様や緑化園芸関係企業、小売店、生産者、学校、趣味グループ等、幅広い県民の皆様のご協力を

ピールできるイベントにして参りたいと考えております。

いたたゞ中での花壇の出展や草花の装飾作品等の出展、あるいは地場産品の市やフリー

マーケット、さらには郷土芸能やコンサートなど人と緑がふれあう楽しいイベントにして参りたいと考えております。

いずれにいたしましても、子供からお年寄りまで、多くの県民の方々が、積極的に参加いただく盛り上がりのあるイベントとなりますよう、さらには、このイベント会場がそのまま緑あふれる吉田公園の整備につながり、県民の皆様の憩いの場となりますよう、さらにそのまま緑あふれる吉田公園の整備につながり、県民の皆様の憩いの場として御利用いただける場となればと考えています。

今後とも、2001年しづおか緑・花・祭の一層の御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴会員の益々の御发展をお祈り申し上げます。



ハンブルグの都市公園

ます。



小公園の軽食堂（ベルリン）

項目	内 容
花・緑及び園芸作品等の出展	主催者が基本理念を入場者に訴える「主催者による展示」 のほか、幅広い参加者による 出展の形態を用意する。
器材・施設等の出展	屋外の庭園・花壇等について、自治体、花と緑の専門企業や生産者、学校、趣味グループ、個人等を参加者の対象とする出展

エリア名	イメージ	主な会場施設
エントランスエリア	緑・花・祭への期待を高める空間	メンゲート、総合案内所
庭のエリア	様々な趣向で楽しむ緑と花の憩い空間	テーマガーデン、エデュティメントガーデン
自然のエリア	生き物を慈しみ育てる心を育む空間	ネイチャーガーデン、グラウンドワークの森
やさしさのエリア	繊細な緑と花の優しさを感じることのできる落ち着いた空間	癒しの庭、五感の庭
にぎわいのエリア	緑と花を伸立ちに、人と人がふれあう賑わいのある空間	マーケットスペース、祭の広場
管理エリア	会場全体を支えるバックステージ	駐車場、バックヤード



こんなアプローチが欲しい

第6章 行催事計画

緑・花・祭を盛り上げるため、会期前、会期中を通じて、

様々な催事を行う。



オフィス街の昼下がり（ワシントン）

項目	内容
フレーベルト	● カウントダウンイベント（開催1年前、100日後） ● 参加追携イベント（ガーデンアート講習会等）
公式行事	内覧会、開会式、閉会式
自主企画催事	● 緑花関係催事 ○ 自然観察会、ビオトープ教室、タクツ教室、花のカルチャーセミナー ● フェスティバル、園芸祭法デモンストレーション等 ● キャラクターショー、花のコンサート、フリーマーケット、オークション等
協賛企画催事	● 市町村郷土芸能、點繁音楽隊演奏会 ● ○ 愛好家会演奏会、○ ○ の会風上げ大会等 ● 出展、行催事等を対象としたコンテスト
ネットワーク事業	● ポストイベント（緑・花・祭記念事業） ● サマーライド会場 ● 出展、行催事等を対象としたコンテスト

第7章 事業推進計画

事業の実施主体である実行委員会の設立平成11年度

(1) 推進組織
設立予定

(2) 入場制度 有料入場方式

(3) 広報宣伝

出展、行催事への参加を促し、開催機運の醸成を図る各種PRの実施

● マスクットキャラクター、ポスター、パンフレット、ステッカー等作成

(4) 広告塔構築幕バナー作成

(5) 観客誘致

参加体験型行催事のプロダクション事前公表によるリピート来場者の確保

(6) 植物調達

現地の潜在自然植生に配慮した植物の選定静岡県内産植物の調達

(7) 交通輸送

道路計画の推進による、会場周辺の駐車場の設置、シャトルバス運行の計画



キュー植物園の春

第8章 事業の継承

県民参加による公園の管理運営を念頭においた運営ノウハウの蓄積ボランティア

● 開催を契機に整備された会場を核とする、いつでも誰もが利用できる公園づくり

● 開催を契機にボランティア活動を始めた人々が、開催期間だけに終わることなく公園づくりなどの発展

● ガーデニングやトピアリー、園芸療法など新たな「花」や「緑」を生かした活動の場としての利用

新年賀詞交歓会盛大に開催

一月二十一日、日興会館に於て恒例の賀詞交歓会を開催した。

本年は賀詞交歓会に先立つて午前中は新年早々のオーナーの研修会を開催。講師にテレビ、新聞等で御活躍の長銀総合研究所 原田幸裕理事を迎えて「寅年 日本経済の展望」と題して一時間半ほど講演をいただいた。先行き不透明感の増す中、会員は熱心に耳を傾け、メモをとっていた。

午後は、不景気をとばさうと恒例の賀詞交歓会。稱勝会長の大型プロジェクト、イベントを控える県の優位性と大団結の必要性をうつえらる挨拶のあと県を代表して来賓の吉岡徹郎環境部長、相談役の栗原裕康衆議院議員、顧問で自由民主党幹事長の奥之山隆県議会議員に祝辞をいただき、井原剛副会長の発声で祝宴にうつった。

本年は、不景気風の吹き荒れる中での賀詞交歓会であつたが、県の各部署の幹部の皆様、農林事務所長、土木事務所長の御出席をいただき、情報交換、名刺交換も出来、盛大なうちに終了することが出来た。



新年賀詞交歓会の様子

郷土種による 緑化技術セミナー終了

静岡県では、富士山などの国、小笠山運動公園、静岡空港等の大型プロジェクトが進められている。

また、国に於ても第二東名自動車道の建設の本格化を控えている。



緑化技術セミナーの様子

協会では、国や県の大型プロジェクトに於ける緑化に対応するため、郷土種による緑化技術と銘打つて五回シリーズのセミナーを開催し、二月五日で最終回を迎えた。

西野副会長出席のもと終了式を行つた。受講生は四十七名で、内四日以上出席の三十六名に西野副会長より終了証書と記念品の贈呈が行われた。

しかし、郷土種は従来の造園緑化材料として緑のないものであつたり、同じ材料であつてもその呼称は、地方、造園業界、園芸界等で異なり、

また、その知識、技術は発注者側と受注者側にかい離が見られる。

このような背景のもと、大規模プロジェクトや大型イベ

ントに於ける自然復元や周辺

景観の演出に貢献できるよう郷土種の定義、名称、生態、増殖技術、土壤、里山の森造り等についての講座で、二月五日の最終回は臨時の受講生もあつて会場は満席の盛況ぶりであった。

講師陣も全国トップクラスの登場を願い、国立科学博物館植物第一研究室長の理学博士・近田文弘氏には郷土種の定義、エリアや森林生態について、(株)インブルの常務理事の野口英昭氏には郷土種の植物名称や生態について、森林文化協会技術顧問の山中寅文氏には現物を提示しながら様々な樹木の実生と育て方にについて講話をいただいた。

最終日は、元静岡県林業技術センター所長、農学博士伊藤守夫氏に緑化植物の生育と土壤条件について、宇都宮大学農学部教授農学博士谷本大夫氏には明治神宮の森などを参考に里山の造り方・育て方について講話をがあり、出席者は熱心にメモをとつていた。

全課程終了後、希望者による講師を囲んでの懇親会を開いたが、熱気のこもった意見交換、名刺交換の内にセミナーを終了した。

空港整備計画推進事業 緑化モデル試験植栽を実施



作業風景

林業技術センターカラ委託を受けて実施中の空港整備計画推進事業緑化モデル試験植栽を実施中。

昨年夏以降は、広葉樹の種子採取と育苗、播種試験。道路工事が始まるごとに、支障木と伐採された広葉樹の根株の移植。その数は二十三種、五〇株。又、クロバイ、コクラン、ササユリ等の貴重種の移植は四四株に及んだ。

そして最後に面上法面への

広葉樹の植栽は五〇〇畳を使つて常緑樹主体、広葉樹主体、麻マット使用、不使用等二〇タイプの方法で二十九種、一、〇〇〇本のポット苗を使用した。

岡県グリーンバンク事務局挨拶のあと「多自然型の川づくり」と題して、沼津土木事務所長 富野章氏の講演。富野氏は世界各国で施工されていいる、いわゆる自然復元、自然景観を取り入れた河川工事の事例や自ら実戦した事例をスライドをまじえて一時間半ほどの講演で実に内容の深いものであった。

望月自然保護課長、山西静岡県グリーンバンク事務局担当職員など二〇〇名が参加し、熱心にメモを執っていた。

午後は「都市緑化のあり方にについて」と題して、東京農業大学造園学科 近藤三雄教授の講演。これ又、富野氏とは対照的な都市部の人工的

デザインの緑化技術を内容としたもので、最近流行のビオトープが都市部にいかに荒廃地を作り出しているかを話さ

午後は「都市緑化のあり方にについて」と題して、東京農業大学造園学科 近藤三雄教授の講演。これ又、富野氏とは対照的な都市部の人工的

デザインの緑化技術を内容としたもので、最近流行のビオトープが都市部にいかに荒廃地を作り出しているかを話さ

午後は「都市緑化のあり方にについて」と題して、東京農業大学造園学科 近藤三雄教授の講演。これ又、富野氏とは対照的な都市部の人工的

デザインの緑化技術を内容としたもので、最近流行のビオトープが都市部にいかに荒廃地を作り出しているかを話さ

平成九年度 緑化技術講習会開催

支部だより

東部支部

支部研修会と開催

東部支部では、恒例となつて、県の各出席機関の所長を講師に迎え、二月二十九日、富士市のホワイトパレスで研修会を開きました。

今回は、午前中富士土木事務所の岸澤所長様に、午後からは富士農林事務所の田中所長様にお願いいたしました。

当日は協会の川崎専務理事

支部だより

も参加し、聴講しました。

日頃疎遠に伺えない仕事を離れた、奥深いもう一つの、専門分野のお話を興味深く伺うことが出来ました。

此處にその一部をご紹介したいと思います。

土木事務所長のお話は、自然の景観重視、今流行のビオトープとでも云いましょうか。これから入っていったわけではありませんが、その内容の深さは、我々造園業者の遥か上をいくものがありました。

林業技術センターカラ委託を受け諸々の試験を行つてきました。

議に思つてはいましたのが、漢字の故郷はお茶の本場で茶葉が主流と聞きまし
た。なつとくです。そういえ
ばウーロン茶も茶色でした。

支部研修会風景



支部研修会風景

ことながら県の出先機関には、すばらしい能力の方がおられると思いました。
知識研修会を通して今後の当番であった。当日は風が強く、テントの中も寒く、コート着用のままの対応で、別の方のコーナーの方が見かねて石油ストーブを貸して下さるハ

の皆様にも講話願えたらいいなと思いました。
東部支部では、この他に、二月初めから、育成管理指導や、協会員の施工する、工事現場の安全パトロールを実施しながら、各地域の、よく手入れ管理された公園や緑地を見て回っています。それは成績良好な所を見つけて、管理コンクールに推薦していくこう思つているからです。(後藤記)

例年ながら佐野先生には三日間連続の登場を願い、我々は初日が大石造園の大石春夫、二日目は木下造園の木下兵太郎、三日目の曜日が私の当番であった。当日は風が強く、テントの中も寒く、コート着用のままの対応で、別の方のコーナーの方が見かねて石油ストーブを貸して下さるハ

フルーツの交配、アスパラガスの作り方、枝垂れ桜の剪定、のさし木、接ぎ木、ボタン、シヤクヤクの移植、キューピー

改良等を私が分担しての対応。相談内容はシンビジュームの植え替え時期、キンカンのユズに実がならない、椿のさし木、接ぎ木、ボタン、シヤクヤクの移植、キューピー

河輪小学校の子供たち

県の新組織と人事、予算がスタート。

県は、第一次産業の組織の見直しの中で、農政部と林業水産部を統合し、農林

水産部としてスタート。組織もフラット化の採用で課長職がなくなり、次長、室長制となつた。

一方人事面では、業界の最大の関心事、国際園芸博覧会の担当理事に杉山直哉企画部長が、空港建設局長には土屋興自治研修所長が、農林本産部長には山田勝平農政部長が、都市住宅部長には久保田昭彦総務部次長が就任し新年度のスタートを切った。関係する幹部職員の異動は次のとおり。(一) 内は旧職

部長總

静岡県理事(企画部長) 杉山直哉
農林水産省次長 農林水産企画担当
(農政部次長) 望月進

農林水產部次長、林業担当
（森林監督課長）……………服部重之
農林水產部次長、林業担当
（森林監督課長）……………鈴木雅道

都市住宅部長(総務部次長)……久保田昭彦 農林水産部次長・農山村整備担当……村田雄剛

企画部次長(建設局長・自治研修所長) 上屋敷
土木部次長(管理課長) 齊藤聖一

土木部技監・総合管理公社へ派遣 中野雄一郎

(都市住宅部技監) 土木部道路監(道路企画課長)……加瀬澤義廣

土木部次長・港湾担当(港湾課長)：渡辺次郎

企画部夢事兼香港対策課長 池田一
都市住宅部次長(住宅企画課長) 中野和男

生活・文化部次長(ゆめ未来局次長)：佐野牧夫
(技監兼都市計画課長)：田辺正博

環境部次長（企劃局總務課長）………高橋邦宏
都市住宅部督監（住宅課長）…………小瀬今夕
中部農林事務所長

環境部参事・全国植樹祭担当
（農地管理課長）
久保田敏夫
（中部行政センター防災監査副所長）

平成10年度 関係県予算

平成10年度がスタートし、空港建設局では自然環境保全対策事業費6千8百万円、ゆめ未来局では国際園芸博覧会開催推進事業費に1億8千万円、自然保護課の環境緑化推進事業費に2億8千9百万円、全国植樹祭推進費4億7千万円、農林水産部治山室の環境保全保安林整備費5億9千9百万円、公園緑地課の都市公園維持管理費9億3千万円、小笠山総合運動公園整備事業費62億9千万円、富士山こどもの国整備事業費49億7千2百万円、2001年しづおか緑・花・祭開催準備事業費5億円等が計上されている。

企画部関係

空港計画推進費 10,574,300千円

空港建設を進めるために必要な用地買収、造成工事及び調査等

空港関連整備事業費 25,910,000千円

空港建設に必要な周辺の道路、河川の整備

自然環境保全対策事業費 68,000千円

空港建設により影響を受ける自然環境の保全対策

生活・文化部関係

観光施設等整備促進費 1,743,000千円

地域の魅力を活かした観光施設整備事業の推進

伊豆新世紀創造祭推進事業費 236,000千円

「チエンジ伊豆2,000!」の開催準備業務・回廊イベ
ント実行計画の策定地

東海道400年祭推進事業費 153,000千円

道筋の歴史・文化を活用した地域づくりを目的に
開催する東海道400年祭の準備

国際園芸博覧会開催推進事業費 180,000千円

しづおか国際園芸博覧会
「パシフィックフローラ2004」の開催準備

環境部関係

ふるさとの山再生事業費 3,000千円

里山の再生のモデル的実践(1地区)

富士山100年プロジェクト3776推進事業費 25,000千円

富士山の優れた自然を保全するため、自然植生復
元のための調査、検討、県民参加の保全対策

環境緑化推進事業 289,131千円

花と緑にあふれた県づくりをめざした緑化推進
全国植樹祭推進費 470,000千円

第50回全国植樹祭の開催準備、会場整備、県民参
加の森づくり等

農林水産部関係

農林自然環境整備事業費(ビオトープ型) 29,000千円

ため池、湖沼等を中心としたビオトープの整備

防災林造成費 282,000千円

海岸における飛砂、潮風害等の防止、土砂流失防
止のための森林造成

環境保全保安林整備費 599,000千円

保健休養効果、治山効果等多目的機能を備えた森
林の設備

土木部関係

伊豆の道ミチガエル事業費 100,000千円

伊豆地域沿道においてポケットパーク等の整備

伊豆地域振興対策道路整備事業費 3,580,000千円

伊豆地域の生活、観光等に資する道路整備

みずべプラン21推進事業費 420,000千円

護岸等治水施設の整備と併せ、人々が自然に親し
める「みずべ空間」の整備

都市住宅部関係

都市計画街路事業費 5,562,000千円

街路の整備

社会環境基盤重点街路整備事業費 4,233,000千円

重点的に早急な整備を必要とする街路の整備

第二東名アクセス街路整備事業費 1,580,000千円

第二東名自動車道のアクセスとなる街路の整備

県单独街路整備事業費 1,789,000千円

県が管理する市街地の幹線街路の整備

都市計画街路事業費補助 1,026,500千円

市町村が実施する街路整備事業に対する助成

都市公園維持管理費 930,447千円

県営都市公園施設の管理、運営(草薙総合運動場、
遠州灘海浜公園、愛鷹広域公園)

小笠山総合運動公園整備事業費 6,290,000千円

スタジアム建築工事、ふれあいの森整備、鉄塔移
設工事等

小笠山総合運動公園関連整備事業費 4,291,000千円

アクセス道路、周辺河川の整備

富士山こどもの国整備事業費 4,972,000千円

富士山こどもの国の整備及び開園準備

公園緑地整備事業費助成 317,000千円

市町村が実施する散策、憩いの場としての公園、
緑道等の整備に対する助成

2001年しづおか緑・花・祭 500,000千円

2001年開催予定の「しづおか緑・花・祭」の会場
実施設計、会場整備、イベントの実施計画の策定等

